ISSN 1347-3085

日本地衣学会ニュースレター

No.8

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目　次

第1回観察会（入笠山）の記録／地域活性化委員長……27
ニュース……30

第１回観察会（入笠山）の記録

Report of the 1st Field Meeting (Mt. Nyugasa) of JSL

（安斉唯夫：地域活性化委員長）

１．集合から出発まで

その日の朝早く山小屋を旅立った私たちを迎えたのは，オコジョだった．カメラを構える原田氏の前に立ち上がったオコジョは，講師として参加した彼と無言の会話を交わした後，地衣の調査を快く受け入れ，その場を譲ったのだった．地衣類観察会のこの感動的な幕開けを目撃した私は，記念すべきこの岩屑斜面をオコジョの岩屋と名づけたのであった．こうして，しばしの間撮影に時を過ごした我々であったが，ハナゴケに厭きた大石さんは予定の時刻まで石灰岩のコケを見に行こうと我々をせかし，林道を下ることとした．彼女は我等地衣界にあって，地衣よりも蘚苔類を好む変わった嗜好の持ち主である．

熊の糞が残る石灰岩の沢を後にした 3 名が集合場所の富士見駅に到着したのは，12 時 20 分頃であっただろうか．駅に着くと田中，岡本，藤井の各氏，滝沢ご夫婦らが駅周辺から一人，また一人と湧くように姿を現した．その頃，東京を旅立った佐藤，小山内両氏は，人身事故で遅れる中央線車中に閉じ込められ，不安な時をおくっていた．混乱する鉄路から事故の第一報を入れた藤原さんは，すばやい身のこなしで中央線を乗り継ぎ，さっそうと富士見駅に降り立ったのであった．一方，高速道路はどうであっただろうか．吉村氏と山本氏を乗せた車は木下氏の運転で快調に中央高速を走り，予定の蕎麦屋乙事亭にはやばやと到着していた．しかし，食事もとらずにひた走った中村氏は，瀧澤さんとともに富士見駅にすべりこみ，そのまま駅前の食堂に駆け込んでいったのであった．こうして慌しく集まる地衣界の面々とは異質な雰囲気をもつ男たちが，待合室にいた．加々見，牛山，久保川の各氏は富士見町の代表として，地衣という怪しげな生き物と，地衣に魅せられたさらに怪しげな人種を観察するべく，この集まりに参加したのであった．しかし，結局のところこの 3 名のも，いつしか怪しげな世界を受け入れてしまうのである．

こうして 5 台の車に分乗した参加者 19 名は，入笠山を目指してフォッサマグナの断層崖を駆けあがって行った．（以上順不同，一部記憶違いの恐れあり）

２．観察会にて

先頭車の車内では，姿を現したナガサルオガセを見つけた学生 2 名が半狂乱であった．このショックは彼の心を深く蝕むこととなり，次の日には頭にサルオガセを巻きつけて山中をさまよう姿をみることとなった．

最初の観察場所は林道と小さな流れの間にひろがる，ネコの額のようなカラマツ林である．当初ここは観察会の予定に無かったが，下見の際，気になってチェックした場所であった．しかし，この細いカラマツ林は驚くべき多様な地衣類相を我々の前にみせてくれた．その詳細はいづれ報告されることであろうことを期待して，ここでは先を急ぐこととする．そう，秋の陽は短く，山の陰は深い．さらに，小黒川を下る．

次の観察地では主に岩上の地衣を観察した．案内者は

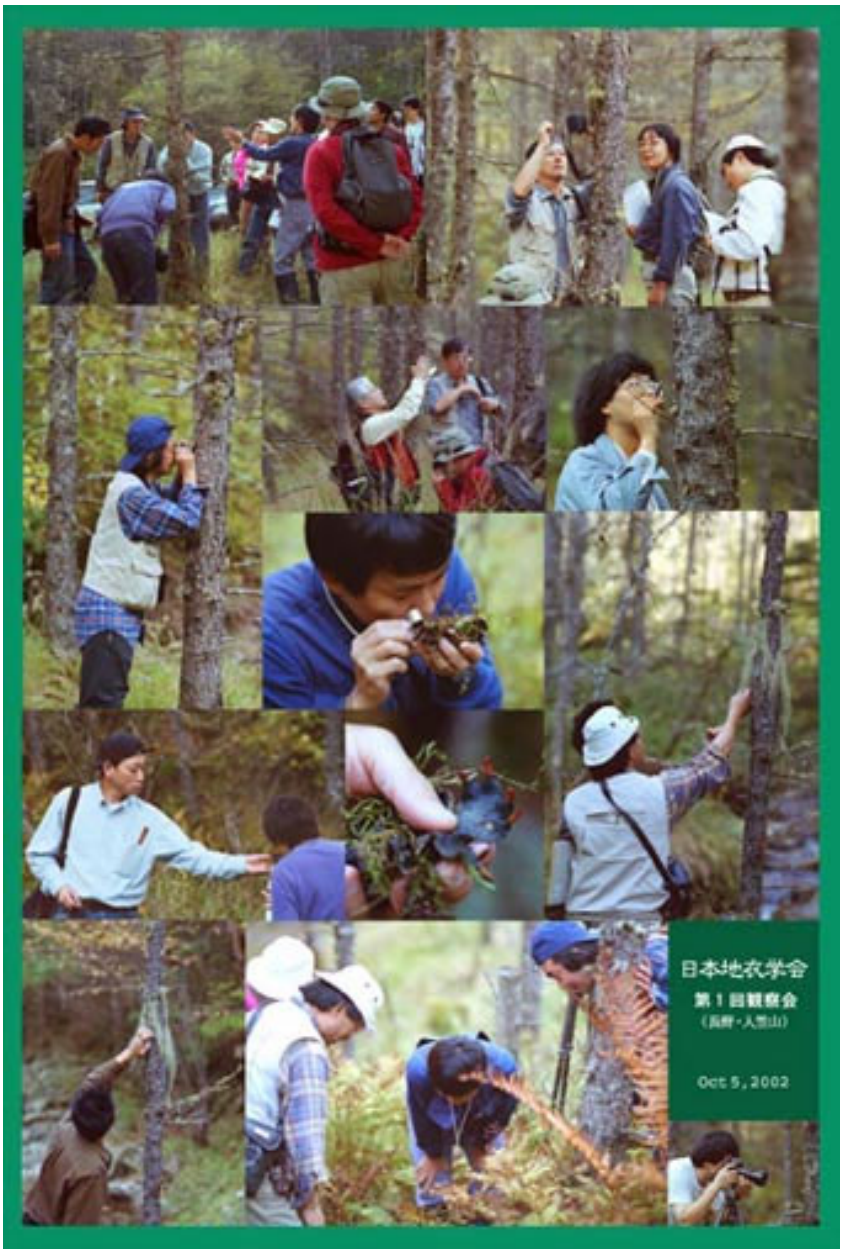

図１．観察会の様子（瀧澤ますみ制作）．

なんとか本来の目的地へ誘導したいのだが，動かない．例によって，先に進まないのである．ここで良いのか，みんな.この先にはニセキンブチゴケが金色の光を発しているというのに，ここでいいのか．ここはただの駐車場ですよ，皆さん．

初日にして早くも，厳選した観察地をみることなく１日が終わってしまった．

夜はバーベキュー．あっという間にたいらげたのは，会長のテーブルであった.おしゃべりばかりで箸の進まない岡本テーブルをみかねて木下世話人が駆けつけ,見事なヘラさばきでヤキソバを仕上げていった姿には感動と拍手がおくられた．

隣の部屋に移動するとそこは写真展会場であった．題して「ちょっとピンボケ写真展」．自信作もあれば，笑ってもらおうじゃないかという居直りの写真もありました．パソコン参加も 2 台ありました．写真の解説も織り交ぜての自己紹介．チイチャンに会いに行く，といって出掛けてばかりいる夫と，チイチャンとはどんな娘だろうといぶかしむ奥さんの自己紹介にはたっぷり笑わせてもらいました．やがて高原の夜はふけ，貸別荘 3 棟に分かれての宿泊を迎えた．

図２．記念撮影．

２日目．今日は稜線を歩き，主に樹皮着生の地衣を観察するコース．ところが，林道の法面をチョット見てから，が誤算の始まりだった．

とんでもないものを山本,吉村両氏に見つけられてしまい，たっぷりと停止．一方，サルオガセに狂ってしまった 3 名ほどは「とんでもないもの」の発見も知らずサルオガセを追いかけ，コースを外れてしまう．法面に着生する観察者を剥がしとり，追い立てるが，ちょっと進んでは樹皮にひっかかってしまうところなど,あんたらはサルオガセか，といいたくなるほどだ．とうてい昼食予定地にたどりつけない,途中のチズゴケ岩場で折り返そう，ということに決定．天候に恵まれ，標高 2000 mの地でお弁当をひろげることができた．

電車時刻の関係で 2 名とは先にお別れし，残ったメンバーは最後の観察地オコジョの岩屋に向かう.ここで 1 名負傷し，最後は流れ解散となりましたが，帰りの中央高速は事故渋滞，みなさんはいかがでしたか？

図 3．懇親会の一コマ（大石英子撮影）．

３．事務的な記録

１）開催地

観察場所：入笠山一帯（長野県諏訪郡富士見町・上伊那郡長谷村）

宿泊場所：富士見高原（長野県諏訪郡富士見町）

２）行程

10 月 4 日　下見 3 名参加（原田，大石，安斉）

10 月 5 日　19 名参加（富士見町ゲスト 3 名，会員 14 名，非会員 2 名）．

13:30 ＪＲ富士見駅出発，小黒川沿いカラマツ林，南沢出合の 2 箇所で観察．富士見高原貸別荘宿泊（16 名）．

10 月 6 日　18 名参加（富士見町ゲスト 2 名，会員 14 名，非会員 2 名）．

9：00 宿舎出発，釜無山，オコジョの岩屋の 2 箇所で観察．

３）参加者

牛山，大石，岡本，小山内，加々見，久保川，佐藤，滝沢，滝沢，瀧澤，田中，中村，藤井，藤原，山本，吉村，原田（講師），木下（世話人），安斉（世話人）

４）写真展参加

滝沢，瀧澤，中村，木下，大石，小山内（呼掛人），安斉（呼掛人）

5）参加費

会員 1.2 万円，非会員 1.5 万円，ゲスト 800 円（2 日目昼食）．

なお，参加費が余ったため，学生以外には 1000 円，学生には 3000 円を当日返却することができた．

4．お世話になった方々

富士見町教育委員会の小松教育長，雨宮教育振興課長さんには地元の方々を紹介していただきました．南信森林管理署の松川さんには入林許可申請でお世話になりました．富士見高原保健地管理（株）富士見高原貸別荘の小林さん他多くの方々には宿泊，食事，懇親会会場，送迎車で面倒をお掛けいたしました．入笠山山彦荘の伊藤さんご夫妻には前日の下見班の宿泊と食事（キノコ鍋ありがとう），当日の昼食をお願いいたしました．最後に，富士見町から参加していただいた加々見さん，牛山さん，久保川さんありがとうございました．地元の方と一緒に観察会をすることがこれほど楽しいとは思ってもみませんでした．

◇　◇　◇

今回の観察会は地域活性化委員会関東がお世話させていただきました．皆さん，遠いところをご参加いただきましてありがとうございました．次回観察会でまたお会いしましょう．

ニュース　News and Announcements

植物学会大会関連集会「地衣学会集会」報告

9 月 21 日から京都で開催された植物学会大会の関連集会として日本地衣学会主催の集いを初めて持つことができた．この関連集会は植物学会大会事務局が会場設営や弁当の手配などいっさいの準備を行ってもらえるので開催責任者にとって非常に好都合なものである．今回，21 日 18 時半から主に近畿地区在住と植物学会に所属する学会会員 11 名（川勝、佐藤、高萩、高橋、棚橋，中嶌、原、原田、坂東、宮川各氏と世話人山本）と非会員 1 名が出席して開催された．

まず，第 1 部として二つの講演が行われた．最初は「南極越冬報告—極地の地衣類」と題して久留米高等工業専門学校・中嶌裕之氏により南極の様々な地衣類や観察拠点などの写真が紹介された．講演後，南極越冬隊に参加した目的や採集した地衣類の今後の研究への進め方，さらに南極越冬隊に参加できた理由などの質疑が行われた．

次に「国際菌学会報告—地衣分子生物学へ」と題して，秋田県立大学・原光二郎氏により 8 月にオスロで開催された国際菌学会での地衣類関連の発表や将来の分子生物学的な研究の進め方が紹介された．講演後，新しい分子系統手法などの話題で盛り上がった．第 1 部終了後、第 2 部として地衣学会懇談会を開き，「更なる地衣学の発展に向けて、次年度に我々がなすべきことは？」を議題に第 2 回大会・シンポジウムや第 2 回観察会・ワークショップ，出版，学術交流，地域活性化などについて短い時間であったが議論を行った．予定時間を越えるほどであったが有意義な時を過ごすことができた．来年は 9 月に札幌（北海道大学）で植物学会大会が開催される予定であるので，関連集会を今後とも継続して持ちたいと考えている．

（山本好和：関連集会世話人）

●複写される方へ
本誌に掲載された著作物を複写したい方は，許諾を受けてください．詳細は本誌7号26ページに．

●**Notice about photocopying**
In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see no.7, p.26 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター
発行日：2002年11月7日
編集：　原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄
発行者・発行所：日本地衣学会
〒010-0195　秋田市下新城中野
秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2002 日本地衣学会　（© 2002 The Japanese Society for Lichenology）
本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します．無断転載・無断複写等は固くお断りいたします．